



年 組 名前

道新でワークシート

20年産米、翌年秋発売

20万ト、コロナ禍で在庫増

全国農業協同組合中央会（JA全中）は10日、新型コロナウイルス感染症拡大などで、主食用米の外食向けの需要が減り在庫が増えているとして、今後本格的に市場に出回る2020年産米のうち20万ト程度の販売を21年秋以降に遅らせると明らかにした。20年産の主食用米の生産量は731万トと推定しており、この一

部が対象となる。JA全中は21年6月末時点の民間在庫量は229万トになると見込んでいる。この水準は豊作などで主食用米の価格が上がった13年産、14年産以来となるとして、主食用米の価格が下落すると懸念している。東京都内で記者会見したJA全中の馬場利彦専務理事は「新型コロナウイルスの影響で

外食需要が減っている。（一部を）来年秋以降に持ち越し、長期的な計画で販売する」と説明した。21年産米への対応については、主食用米の代わりに飼料用米や麦、大豆などを生産するよう農家に勧めるとした。主食用米の保管などにかかる費用は、農林水産省の補助事業を活用する。

2020年9月11日（金） 朝刊 全道遅版 経済 12P（記事は再編集しています）

- ① 記事内の下線部の理由を、記事を参考に「需要」「価格」の語句を使って説明しましょう。

- ② ①のような状況に対応するために、下線部以外にどのような方法が考えられますか。

- ・
- ・